

93 バス作ってみた。

地域活性ゼミ

①動機：ここ鶴岡市では、人口減少や車の使用率が高いことから、バスの利用が年々減少している。そこで、私たちがこの活動を通して、バスの魅力を全世代に知ってもらい、利用促進に繋がりたいと考えたから。

②仮説：鶴岡市民は各々決まった理由があり、バスに乗らないのではないのか。またそれらの課題点を少しでも改善できれば、バスの利用促進につながるのではないのか。

③アンケート実施とその結果：活動内容の一つとして、庄内交通さんが毎年開催する、「バスの日イベント」に参加させていただき、独自のアンケートを実施した。

n=83 (バスをほとんど利用しない人 :81人 週1~3:1 週5~7:1)

〔不便な点〕バスの本数が少ない。・時間に縛りがある。・目的の場所に一度で行くことができない。バス停が近くにない。混むと大変。

〔要望〕決済方法を増やしてほしい(バーコード決済、キャッシュレス、クレジットカード、電子決済、paypay)、Wi-Fiやテレビなどの設備の新設、循環バスの本数を増やす

⇒これらの不便な点や要望を元に後期では先行事例を詳しく調べ、これらの点を補う事例をまとめた。↓↓↓

弘前市「弘南バス藍内線」横手市「ふれあいバス」北見市「新キャッシュレス決済」関西空港交通「Wi-Fiサービス」導入など

④仮説の結果と考察…

・アンケートを実施した結果、仮説通り「車で移動ができる。」、

「バス停が近くにない。」、「料金が高い。」などの理由で「バスにほとんど乗らない」と答えた人がほとんどだった。

・考察としては、「要望」に多く寄せられた、「キャッシュレス決済の導入」や市街地から遠い距離にある地域にバス停を増やすなどを行うことができれば利用促進につながると考える。

(※バス停を一つ作るのには多額のお金がかかるので、なかなか実現は厳しそう …)

⇒そこで、私達は「こういった機能があれば更に乗客が増えるのではないのか」と考え独自のバスシステムを考えた。(別プリントより)

⑤まとめ：1年間私達なりにバスの問題と向き合ったが、現状を変えることは難しかった。しかし、普段の生活においてバスが欠かせない人がいることは確かなことで、無くしてはならない仕組みだと思える。鶴岡に住む人がバスをうまく利用することで、バスは走り続け、生活を豊かにすることにもつながると思う。